MYNAVI CAREER SUPPORT BOOK

キャリア支援・就職支援のヒント集

キャリア支援・就職支援に日々尽力する教職員の皆さまへ

「マイナビキャリアサポート」はキャリア支援・就職支援に関する総合情報サイトです。本冊子はサイト内の人気コンテンツである「大学のキャリア支援事例」から一部の文章を抜粋し、再編集しました。

より良いキャリア支援・就職支援とは何か。

答えのないその問いと日々向き合われている皆さまからの「他大学の事例を知りたい」という声をもとに誕生した同コンテンツ。この冊子に登場する様々な大学の取り組みが、皆さまの学生支援のヒントになれば幸いです。

各大学事例の詳細はこちら　https://mcs.mynavi.jp

マイナビキャリアサポートとは？

1 キャリア支援に関する基本情報を確認できるサイト

キャリア支援・就職支援を構築する上で必要な「方針」「計画」「取り組み」といった基本的なポイントに加え、「社会人基礎力」や「三省合意」などの押さえておきたいキーワードの解説情報を提供しています。

2 全国各地の大学のリアルな事例やヒントが満載

全国各地の大学を取材し、キャリア・就職支援ご担当の職員の方、キャリア教育を行っている教員の方へのインタビュー記事を掲載。自校との比較や支援の改善につながるヒントが満載です。

3 各種セミナーの最新情報＆お申し込みが可能

キャリア支援情報のご案内や参加者同士の交流会もある「支援力UPセミナー」、新卒採用調査データを活用した「総括セミナー」など、教職員向けセミナーの最新情報を掲載。サイトからお申し込みが可能です。

組織づくり

ORGANIZATION

教員、職員、大学が一丸となって学生を支援する組織をどう築くか。
各大学がハードからソフトまで様々な取り組みを行っています。

カレッジ再編で支援に携わる教職員が約110名に拡大。

学部やキャンパスとは別に、関連する学部を一つの小さな大学と見立てた「カレッジ」という新たな枠組みを設け、縦割組織となっていた事務組織も10ヶ所のカレッジに再編しました。結果として東海大学全体としてキャリア・就職支援に携わる教職員の数は約110名にまで飛躍的に拡大。今では「困っていることがあれば、とりあえずカレッジオフィスに行けばいい」という風により身近な場所になりました。（東海大学）

ゼミ担当教員から学生の状況を毎月共有いただく。

中部大学では昔から、教員と職員が一体となってキャリア支援に取り組んできました。学科ごとに任期5年の就職担当教員を置き、年5回の定例会に加え、分科会にも参加してもらうなど。さらに大切なのが、3・4年生の就職活動の状況の把握です。ゼミを持っているような教員の方々には、学生たちの状況をこまめに聞き出してもらい、毎月キャリア支援課への情報共有をお願いしています。（中部大学）

火曜日4、5限は「進路の日」。

和洋女子大学では教職協働の意識が強いことが特長です。キャリアカウンセラーとともに、担任の教員も学生をサポート。学生を理解するのに、就職活動だけ、学業だけを見ていても、本当の気持ちや状況はわかりません。ちなみに、教職協働の象徴は大学3年生の火曜日4、5限「進路の日」かもしれません。その時間は、伝統的にほぼ授業がなく、就職セミナーや企業説明会などのキャリア講座を実施しています。（和洋女子大学）

SUPPORT FOR LOWER GRADES

低学年

大学1～2年生だからこその支援の難しさ、可能性の大きさを感じながら、様々なサポートに挑戦しています。

大学2年生を対象とした「就活力育成実践講座」を開講

大学2年生を対象とした約1年半の新しいプログラムを2022年度から開講します。希望制ではありますが、就職やキャリアに対する意識の高い学生に早めにアプローチをかけることで、大学3年次の競争率が高い大手企業へのインターンシップの参加率を少しでも高めることを目的としています。少しでも早い時期から準備し、いざ3年次のインターンシップの選考段階で臆することなく応募できる就活力を磨いてもらいたいと考えています。（摂南大学）

入学直後の学生たちがゲーム感覚で受けられる「適性診断MATCH plus」。

学生が1年次から「仕事を知る」「自分を知る」ことができる環境づくりを目指しています。「適性診断 MATCH plus」を入学直後の学生たちがゲーム感覚で診断テストを受け、世の中や自分自身のことを知るきっかけになればと考えました。（広島大学）

INSPECTION & IMPROVEMENT

検証と改善

キャリア支援・就職支援で成果を挙げている大学が大切にしていることの一つが、検証と改善の徹底でした。

企画したことの多くは空振りする。

キャリア支援や就活支援は、どうすればきちんと効果が出るか、仮説を立て、実施、検証していくことが大切だと思います。大学で企画したことの多くは空振りします。学生にとって何が良いのかは、毎回のアンケートや就職活動を終えた学生に直接聞くことにしています。学生の声を受け止めて、今後も取り組みを改善し続けたいと考えています。（広島大学）

CONNECTION WITH GRADUATE

卒業生

卒業生とのつながりは、大学のキャリア支援・就職支援の大きな財産。各大学が様々な形で連携しています。

昭和から続く、卒業生の支援の輪。

授業でのゲストスピーカーや、就職懇談会での登壇。さらに毎年、「私の職場状況」というアンケートにも多くの卒業生に協力してもらっています。また、昭和から続けている「就職のしおり」も卒業生の応援コメント入り。今年からは新しい取り組みとして「国際機関で働くOG」講演会を、国際交流課と共同で開催しました。（日本女子大学）

大都市圏の企業へのOBOG訪問が気軽にできない。学生たちには出来る限り広い世界を知ってほしい。

特に力を入れているのが、930名を超える本学の卒業生の投稿で構成される「OBOGキャリアメッセージ」です。地方国立大学の場合、大都市圏の企業へのOBOG訪問が気軽にできないため、その代替機能として活用してほしいという思いがあります。さらに、熊大生は卒業後の進路の約70%が地元九州の企業や官公庁。地元への貢献は大きな責務ですが、学生たちには出来る限り広い世界を知った上で自分軸を築き、進路を決めてほしいと考えています。（熊本大学）

私たちキャリアセンターが企画する「ベトナムインターンシップ研修」。このプログラムでも学生にヒアリングします。「この内容が響くと思って企画したけれど、実際はどうだった？改善点はある？」と。学生をリスペクトし、学生から学ぶことで、より良いキャリア教育はつくられていくと考えています。（学習院大学）

学生をリスペクトし、学生から学ぶ。

「待つ」ではなく、「行く」のはどうか。

マイナビが主催する合同企業説明会に就職キャリア支援課の相談ブースを設置すると。結果は連日、長蛇の列。大学で相談してくれたら…と思ったのですが、よくよく聞くと「就職キャリア支援課の事務室に入るのが何となく怖かった」と。待っているだけでは届かない学生もいると痛感しました。ちなみに、その学生たちとはその後もつながっているので実施して本当に良かったと感じています。（東北学院大学）

インターンシップ INTERNSHIP

大学主導のインターンシップはどうあるべきか。それぞれの大学が考え、工夫し、学生たちに大きな成長の機会を提供しています。

学生に「リアル」を見てほしいから、有償制に。

有償制のインターンシップにこだわったのは、学生に「リアル」を見てほしいからです。薬学部の実務実習は教育の場であるがゆえに、事情のある患者さんの対応やいわゆる雑用など、リアルな薬局運営を経験しづらい側面も。そこで、学生にも業務上の責任が発生する有償制であることが必須だと考えました。ある学生は「今回の経験をもとに、一から勉強しなおそうと思います」と言ってくれました。プロのコミュニケーションを間近で見て、自分に足りないものを感じてくれたようです。(武庫川女子大学)

希望が叶わなかった学生たちの方が「先生、新しい発見があった！」と喜んで戻ってくる。

大学主導のインターンシップはあくまでも教育が目的。だからこそ、インターンシップの前後に学習の機会をセットしています。事前学習では「インターンシップとは何か？」からスタート。受け入れ先の会社概要や業界などに関する説明も行い、その上で学生たち自身に希望を出してもらいます。ものすごく手間もかかりますし、希望がかなわず落ち込む学生も現れますが、私の経験からすれば、希望が叶わなかった学生たちの方が「先生、新しい発見があった!」と喜んで戻ってくることが多いように感じます。(大東文化大学)

学生たちは見違えるように成長。大学での学びの大切さに改めて気づく。

学びの場を社会に移す、コーオプ教育を導入。

授業でも課題を見つけて解決策を提案することは可能なのですが、そこに顧客視点を踏まえて、実際に手を動かし完成させていく……ところまで経験させることはなかなか難しい。ならば、学びの場を社会に移そうと考え、コーオプ教育を導入することに。コーオプ教育から帰ってきた学生たちは、見違えるように成長しています。さらに、「あの授業をもっと学んでおけばよかった」と、大学での学びの大切さに改めて気づくのです。(金沢工業大学)

多様性 DIVERSITY

いかに学生一人ひとりにオーダーメイドの支援をしていくか。多様性の時代、様々な大学の幅広い取り組みを知ることができます。

100人100通りのキャリア観に寄り添っていく。

国ごとのキャリア観の違いの上に、さらに学生一人ひとりの想いと志がある。企業で働きたい、国際機関に勤めたい、はたまた自ら起業をしたい。そして、それをかなえる地は日本かもしれないし、フランスやケニア、ウズベキスタン、ペルー、アメリカかもしれない。まさに100人100通りのキャリア観に寄り添い、一緒に考えていくことが「小さな地球」で キャリア支援する私たちに求められることとなります。(立命館アジア太平洋大学)

生活のすべてが他者との関係を学ぶ機会。

北は北海道から南は沖縄まで。多種多様な価値観を持つ若者が人口約3万人の都留市で学び生活をしています。ここでは生活のすべてが他者との関係を学ぶ機会。異なる都道府県出身の友人から新しい習慣を知る。たとえ価値観が異なる友人がいても交流するためにその術を学んでいくことになります。大学として、双方向や実践という学生個人では得られないものを提供することに、今まで以上に努めていきたいですね。(都留文科大学)

悩みを共有することで不安を軽減する効果を実感。

「就活なんでも相談会」では、「いいね」が多い質問から答えていく形式に。すると、学生から「他の就活生も自分と同じような悩みを抱えていると知り、安心しました」といった声を多数聞くことができ、他の就活生と悩みを共有することで不安を軽減する効果を実感することができました。(明治大学)

地元のBtoB企業にも目が留まるように。

業界研究では、BtoB企業や地元企業の方に登壇いただくことが多いですね。たとえば、地域に根を下ろした運送会社などは典型的な例です。この広い北海道でロジスティクスが担う役割は非常に重要にも関わらず、学生からするとドライバーさんのイメージしかないため、敬遠されてしまいがちです。そうした地元のBtoB企業にも目が留まるよう、学生に新たな気づきを与えることを意識して企業を選択しています。(札幌学院大学)

ROLE OF UNIVERSITY

大学の役割

最後は、キャリア支援・就職支援における大学の役割です。
大学だからできること、そして、支援にかける想いが伝わってきます。

面白いと思えることでなければ、学生も続けたいと思わない。

学生自身が自ら考え、動き、納得できるように最後まで伴走。

明治大学には1学年に約8,000人の学生がいますが、就職に対する思いや考え、置かれている状況は学生ごとに異なります。そのため一人ひとりの話を十分に聞いて、学生たち自身が自らの答えを導くお手伝いが必要だと考えているのです。ただ、勘違いしてほしくないのは、答えを手取り足取り教えるような支援はしないということ。あくまで、学生自身が自ら考え、動き、納得のいく就職活動ができるよう、国家資格キャリアコンサルタントなどの資格を保有した専任職員を中心に、最後まで伴走していくことを心がけています。(明治大学)

学生たちを見ていると、同世代の仲間と切磋琢磨することが一番の成長につながるように感じます。それによって、学生一人ひとりがチームの中で「自分はどんな役割を果たすべきか」といったことも考えるようになるはず。これは、企業で働く上でも重要な意識だと思います。そして、何より、面白がりながら、知らず知らずのうちに力が付いているということが大切です。結局、面白いと思えることでなければ、学生も続けたいと思いませんからね。(摂南大学)

本当に例年通りでいいのか?

「そのキャリア支援は学生が求めているのか」「本当に役に立っているのか」を常に自分たちに問い続ける必要があると思うのです。つい、毎年同じような取り組みを行うことが多くなるかもしれませんが、その時も一度立ち止まって「本当に例年通りでいいのか?」と考えることが大切だと思います。(中部大学)

個に寄り添うプロフェッショナルに。

本当に自分へ問いかけるのは「自分の良さはなんだろう」「どうしたらその良さが伝わるんだろう」ということであってほしい。だからこそ、私たち大学職員は「個に寄り添うプロフェッショナル」にならなければと強く感じています。(東北学院大学)

学生たちと職員で一緒に、「素敵探し」をしています。

女子大へ進学する学生の中には、最初の頃は自分を出しきれていない学生も少なくありません。素晴らしい可能性を持っているにもかかわらず、内に秘めてしまっている。それを外に出していくきっかけづくりが私たち進路支援センターの役目です。学生には「一緒に『素敵探し』をしていこう」と声をかけています。(和洋女子大学)

各大学事例の詳細はこちら